

意見聴取会 意見陳述申込書

天塩川流域委員会 宛

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成17年3月9日

1. 意見陳述申込者

ふりがな  
こ 氏 名

年齢 6 / 歳

性別  男 ・ 女

こ 住 所 中川郡中川町

2. ご 意 見

別紙のとおり

※上記のご意見記入欄が不足する場合は、本意見陳述申込書と併せて別紙で提出して下さい。

私の住んでいる中川町は、上川管内の最北に位置し、農業を基幹産業とする山村地域であります。

町の発展の歴史は、洪水との戦いの歴史といっても過言ではありません。融雪による出水をはじめ年に幾度かの大雨のたびに、道路や農地などいたるところが冠水し、一面が茶褐色の海のように変貌いたしました。まさに降れば洪水、照れば旱魃の繰り返しが長く続いていました。

また、2年に1度くらいは台風などによる洪水に見舞われ、丹精を込めて作付けした農作物が全滅し、悲嘆にくれている農家の方々を今も記憶しております。

昭和26年北海道開発局が設置されてからは、治水事業も本格化し、中川町にあっても天塩川のショートカット事業によって河川水位が低下し、洪水被害も少なくなると同時に、地下水位の低下により耕作面積も拡大いたしました。

また、河道掘削や築堤工事等によって、洪水時における川の流れなど、流下能力が拡大し、中小の洪水で川河が氾濫をするようなことは最近では殆んどなくなりました。

しかし、テレビ・新聞等を見ていると、地球規模での異常気象がいわれており、今までの考えが通用しないような災害が世界の各地で頻発しています。

昨今の雨の降り方は、マスコミによれば、今までと違って、集中して大量に降るといった傾向が強いということが報道されております。

去年は新潟地震の陰に隠れていましたが、新潟、福井、兵庫、四国と全国各地でたくさんの犠牲者を出す大きな洪水が発生した悲惨なテレビの映像を目の当たりにしました。

身近なところとしても、一去年は胆振・日高地方で大きな洪水被害が発生しております。

このとき、もしも、二風谷ダムが存在しなかったとしたなら、もっと甚大な被害を被っていたらろうということを聞きました。

このようなことを考えると、洪水被害がいつどのように私たちに襲いかかるのか想像することは大変難しく、たとえ現在が安全であっても、対岸の火事のごとく、他人事ではすまされない大きな不安を感じているところで御座います。

温暖化などによる異常気象といわれる災害であっても、毎年のように頻繁に各地で発生するなら、それは、地球上のどこかで稀に起きる事象ではなく、気象の変化によって恒常化したできごとと受け止めていくのが、ごく自然な考え

方であるように思っております。

このように繰り返される災害への対応や、あるいは今までの常識が通用しない不測の事態に備えた対策や整備は地域住民の生活基盤を守る上で欠くことのできないものであり、行政側だけではなく私たち地域住民の責任でもあると考えております。

お話では、当地にあっては天塩川の築堤拡築計画や河道掘削計画、さらに洪水調節としての役割を担うサンルダムが計画されていると聞いております。前者は長い年月を要するのに比べ、サンルダムは効果が発揮されるのも早く、ダムの下流全体に対して調節効果があることを聞いております。

また、天塩川流域委員会が提案した遊水池案もあるようですが、この案については多くの農地面積を犠牲にしなければなりません。

バブルの崩壊後、日本中が経済的な苦境に陥っております。

こうした中にあっても急速な技術革新や情報化の流れの中で、新しい政策展開や多様な企業の融合や誕生により、官民を問わず自立的な地域発展の道は、裾野を広げながら遠からず確立されていくものと信じております。

21世紀に於ける北海道、ここ道北の地域にあっても多様性に富んだ産業活動の展開は強く求められております。しかし、長期的な視点に立って道北の発展を展望するならば、人口密度に比較した広域性や立地性の観点から考えても、その軸足は、あくまでも確固たる日本の食料基地としての農業の維持発展におかなければなりません。そして、この農業の維持発展を除いて本道の振興を図ることは出来ないともと考えております。

世界的な人口増加や日本における食料自給率の問題等、農業の振興は国を挙げての大きな課題となっています。農地の砂漠化や工業用地への転用等により、世界的には農地面積の減少が続いていますが、農地面積の確保がなくして農業の存続があり得ないことは、いずれの国やいずれの地域にあっても同じことです。

ですから事業選択の基準として、失う農地の大きさも重要な価値基準としなければならないと思います。

さらに、天塩川は先般「北海道遺産」にも選定されました。

渇水期、増水期を問わず、出来る限り水量が調節され、せせらぎが聞こえる

川の流れ。そこには小鳥が水を求め、魚が棲むにふさわしい良好な水質、そして家族連れがカヌーや水辺で遊び、人が安らぎを感じる事の出来る・・・そんな天塩川を次の世代に残していくのは私たちの義務でもあり責務でもあると考えられます。

先にも述べました様に、サンルダムが備えている機能として、治水・上水道・発電・~~農業用水~~はもちろんのこと、水量の調整もダム機能の重要な要素であると聞き及んでおります。

動植物の生息や自然環境に充分配慮し、地域の長期的な発展やそこに住む人々の幸せに貢献できるサンルダムとして、私は1年でも早い完成を希望しております。